

金日成主席の一生

チュチェ思想国際研究所理事長

教授 ラモン・ヒメネス・ロペス

金日成主席の一生は特出した功績と英雄主義、祖国と人民、人類にたいする限りない愛で一貫されています。

代を継いで伝えるべき主席の著作と生涯にたいする話しは実にたくさんあります。

金日成主席は1930年6月30日、共青および反帝青年同盟の幹部会儀で行った報告で、今日、われわれの青年共産主義者の前には現情勢の要求に相応しく朝鮮革命を正しい道に指導すべき重大な課題が提起されている、日本帝国主義は朝鮮にたいする植民地的暴圧と略奪をさらに強化している、と述べています。

今から90余年前に朝鮮につくられていた状況は、たとえ一部の国が軍事的に占領されていないとしても、今日の新自由主義時代に生きる諸国人民の状況と同じであるといえます。金日成主席が教えたように、各国の人民は情勢の要求に相応しく闘争を発展させていかなければなりません。ラテンアメリカ、特にメキシコの場合、新自由主義の略奪がもっとも強かったのですが、新自由主義的な政府は、国土の60%に達する1億2千万haの鉱脈を譲渡しました。私営会社、特に、外国の私営会社と原油開発および採取の契約を結んだことにより、燃料の生産で国の自主権と自立を甚だしく侵害され、この時期に85%のガスとディーゼル油を輸入するほどにまでいたりしました。11年前に電力部門では国営会社が150%の電力を生産できる能力をもっていたのですが、現在の国営会社は国家が要求する電力の54%しか生産できずにいます。以前、メキシコはとうもろこしをはじめ、穀物生産で自給自足しましたが、今はほとんど90%の米と45%のえんどう豆、50%のとうもろこし

を輸入しています。今はこのような現象が情勢の要求に合わせて変化していますが、大統領は、メキシコはもうこれ以上略奪の土地ではないと宣布しました。

ボリビアでも帝国主義者と本来の少数党政府が、国家の力を弱化させ、鉱物とリチウムなど、天然資源を手中に入れるためクーデタを企みました。

帝国主義の貪欲はまた、ベネズエラでも探し見ることができます。

帝国主義者は21世紀の社会主義を建設しようとする人民の側に立ったこの国の政権を屈服させるために、この国の金資源、国営会社の財政とアメリカにある国営精製会社を凍結させました。

他国の場合も同じであります。

金日成主席が教えているように、各国の人民は情勢の要請と自国の歴史、自国の実情に即して帝国主義の略奪に立ち向かって闘い、常にチュチェ思想の要求通りに自主性と創造性、意識性を高く発揮してきました。

自主性を実現するための朝鮮人民の闘争において金日成主席が打ち出した戦略は、本質においてラテンアメリカ諸国の人民が今日、新自由主義の状況下で帝国主義者と民族少数党政治勢力を打ち負かすために適用すべき戦略と同じです。そのうちボリビアとアルゼンチン、ベネズエラとメキシコでは、民主勢力と愛国的勢力、新自由主義と少数党政府に反対する勢力が勝利し、代表民主主義から真の人民民主主義の萌芽である参与民主主義に移行しました。人民大衆はこの民主主義で自らの運命を開拓し、自主的な国を樹立しようとしています。確かにこれらは、自主権と尊厳、純潔を尊重しながら世界平和の気流を形成し、国際問題を解決するよう助けています。そして彼らは戦争の方法ではなく、政治的対話と協商の方法で自らの問題を平和的に解決しようとしています。

人類の歴史は自主性をめざす人民大衆の闘争の歴史であると

解明した金日成主席の命題を肝に銘じるべきであります。それでわれわれは金日成主席の誕生記念日を迎えながら、90余年前に定立されたがいまだに大きな有効性と生命力をもっているチュチェ思想の根本原理にたいする研究と普及を進めなければならないのです。

この闘争は同時に内外の圧制者に反対する闘争となります。

チュチェ思想が創始される当時、朝鮮人民の闘争は日本帝国主義と地主、資本家と民族反逆者に反対する闘争でありました。しかし、今日、われわれの闘争は新自由主義の形態（新自由主義的世界化）である帝国主義と国際通貨基金、世界銀行、米州開発銀行といった帝国主義の道具、民族少数党政府とベールに隠された腐敗したすべてのものに反対する闘争であります。

金日成主席は尊厳と自主権、自主性と人民にたいする愛をもってアメリカ帝国主義に気概を示しました。もっとも強大であった、原爆で武装したアメリカ帝国主義は、侵略史上はじめて朝鮮戦争で敗北しました。米軍の将官マーク・クラークは自分の回想記で当時のことについて、わたしはアメリカの歴史上初めて勝利のない停戦協定にサインをする不名誉な任務を果たすようになった、と打ち明けました。この言葉は世界のすべての正直で善良な人たちに感激を与え、今日の世代そして自主性のための人民の闘争に力と勇気を与えています。祖国解放戦争における朝鮮人民の勝利は、自己の運命を自分の手に掌握し、自主性のために戦うならば、必ず勝利するということを示しました。

金日成主席は1990年代の初頭、社会主義を固守しました。

当時、ベルリン障壁が崩れて社会主義同盟とソ連が解体し、全世界の多くの左翼団体と党が士気と希望を失くして分裂しました。これはえせ政党の帝国主義思想家と宣伝者の勢いをつけました。御用出版業者たちは歴史と社会主義の終焉について宣伝しました。こうした状況で悪辣な経済封鎖と政治的孤立を強いられたキューバと朝鮮民主主義人民共和国を除いたすべての国は市

場経済の世界に飛び込みました。

金日成主席はチュチェ思想にもとづいて政治における自主、経済における自立、国防における自衛を堅持しました。金日成主席のこうした活動は数百万人民の心を捉え、彼らをして社会主義を目指す闘争で希望を失わないようにしました。

1989年6月24日、金日成主席はユーゴスラビア新聞責任主筆とおこなった記者会見で次のように述べています。

「われわれはマルクス・レーニン主義の革命的原則をわが国の現実に具現し、朝鮮革命の進路を自主的に切り開く過程でチュチェ思想をもつようになりました。

わが党の指導思想であるチュチェ思想は、人民大衆を中心に革命の原理を示しています。いいかえれば、チュチェ思想は革命と建設の主人である人民大衆が自己の運命を自力で切り開く道を示す革命思想です。

われわれはこれまでチュチェ思想を指導指針とし、人民大衆の革命的熱意と創造力に依拠することによって、各段階の社会革命を成功裏に遂行し、社会主義建設を力強くおし進めてきました。われわれは、かつて立ち後れた植民地半封建社会であったわが国を短期間で政治における自主、経済における自立、国防における自衛の社会主義国にかえ、社会の全構成員が助け導きあって、自主的で創造的な生活を思う存分享受する真の人民の国にしました。朝鮮革命が前進してきた勝利の路程は、チュチェ思想の正当性と真理性を如実に実証しています。

チュチェ思想は朝鮮革命の実践的要請から、朝鮮人民の闘争経験にもとづいてわれわれがうちだした思想ですが、これがこんにち世界人民のあいだで広範な支持と共感を呼び起こしているのは、あらゆる支配と従属に反対し自主性を志向する現代のすう勢と、自己の運命を自力で開くわれわれの時代の人民の念願にかなっているからだと考えます。

時代が前進し、革命運動が発展すれば、それに即応して革命思想も発展するものです。わが党のチュチェ思想についてもそういうことができるでしょう」

金日成主席は18歳の若年に卡倫でチュチェ思想を創始し、82歳までこの思想を発展豊富化しました。

金正恩総書記はチュチェ思想の貴い創造物である朝鮮民主主義人民共和国をなんぴともあえて軍事的に侵すことのできない核強国、ミサイル強国、同時に朝鮮人民が健康で愉快地、創造的な生活を享受する社会主義強国に変えました。

金日成主席に永遠な栄光をささげます！